【小学校・交流に関わる体験活動】

県立ろう学校小牛田校との交流体験活動

宮城県遠田郡小牛田町立青生小学校

学　校　の　概　要

① 学校の規模

○ 学級数：６学級

○ 児童数：１４０人

○ 教職員数：１６人

② 体験活動の観点からみた学校環境

○ 小牛田町は，人口２万人余りの町である。宮城県の県北に位置しており，ＪＲ東北線・陸羽東線・石巻線の交わる交通の要所となっている。

○ 学校は田園の中にあり，農業に携わる住民が多いものの，会社員，公務員等，多様な職種の保護者がいる。

○ 児童の家庭環境についてみると，以前から青生地区に住んでいる家庭は，祖父母と共に暮らす三世代，四世代の家庭が多い。反面，宅地化も進んでおりここ数年の間に住み始めた家庭では核家族がほとんどである。

○ 核家族化，少子化の影響で，児童数は少しずつ減少傾向にあり，多くの仲間とかかわって遊んだりすることは少なくなってきている。

○ 県立ろう学校小牛田校とは，約１．５ｋｍの距離にあり，徒歩でも２０分程度で行き来できる。

③ 連絡先

○ 〒９８７－００１５
宮城県遠田郡小牛田町
青生字中の橋１２８番１号

○ 電　話：０２２９－３２－２２７８

○ ＦＡＸ：０２２９－３２－４３２５

○ 電子メール：
aosyo@town.kogota.miyagi.jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

○ 聴覚障害者に対する正しい理解や認識を基に仲間意識を育て，お互いが協力連携することによって社会が構成されていることを理解させる。

○ 聴覚障害を理解させることによって，障害者などに対する思いやりの心を育てる。

○ 障害の程度によって一人一人の接し方に違いがあり，相手を十分に理解することの大切さに気付かせ，コミュニケーションの技能や態度を身につけさせる。

② 主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

○ 全校児童による交流（６時間）

・ 児童会行事：対面の会，収穫祭

・ 教科：体育（持久走大会）

○ 各学年による交流（１１～２２時間）

・ 学校行事：学習田作業関係

・ 教科：体育，図工，音楽等

・ クラブ活動：球技クラブ

○ 期間は年間を通して（５月～翌１月）

③ 指導体制の工夫

○ 毎年４月に両校の担任が集まり，昨年度の反省と児童の願いや思いを基にして今年度の交流の計画を立てる。

○ 毎年２月に両校の担任が集まり，１年間の交流の反省をし，次年度の全校交流の内容と日程を調整する。

④ 活動の成果

○ 交流を通して，聴覚障害者に対しての正しい理解が児童，教員，保護者の間で深まっている。

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

ア　聴覚障害者に対する正しい理解に努め，共に楽しく活動しようとすることができる。

イ　交流のための内容を話し合い，準備を進めながら，聴覚障害者とのコミュニケーションについて工夫することができる。

ウ　交流を通して，相手を思いやる心の大切さや協力することの大切さを知り，豊かな心を育む。

（2）全体の指導計画

ア　活動の名称

「ろう学校と小学校の交流学習」

イ　実施学年

全学年

ウ　活動内容

全校児童による交流：対面の会，持久走大会，収穫祭

各学年による交流：田植え・稲刈り，水泳大会，教科学習，クラブ活動（球技）

エ　教育課程上の位置づけ

（ア）教育課程内の交流体験活動と位置付けており，年間を通して交流を図っている。同学年の児童同士の交流が主となるので，６年間の交流を行うこととなる。

（イ）活動内容の位置付けは授業時間内に行い，その内容は学校行事，児童会活動，教科，クラブ活動である。

オ　実施時間数や活動場所など（日数や時間数）

（ア）日数については，年間を通して交流を行っており，1時間の交流や1日交流もあるので，学年により多少のばらつきがある。

（イ）　時間数

学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学校行事	1	1	1	2	4	2
児童会活動	4	4	5	4	4	4
教　科	１４	１４	１６	9	9	２０
クラブ活動	0	0	0	2	2	2
計	１９	１９	２２	１７	１９	２８

カ　活動場所

青生小学校，ろう学校小牛田校，校外学習による活動・見学先

キ　継続の状況等

県立ろう学校小牛田校小学部と本校との交流は，昭和４８年，ろう学校にプールが設置されたとき，本校が１．５ｋｍ離れたろう学校のプールを借りることになったことから始まる。当時，両校児童は一緒にプールを使って交流し，そのお礼にと本校の体育大会にろう学校児童を招待した。そのころの交流は行事で交流する程度であった。

本格的に交流学習に取り組んだのは昭和５７年からで，年度当初に両校の打合せ会を持ち，前年度の反省に基づいて新たな計画を立て，行事の他に学年での交流も実践してきた。

２　活動の実際

（１）交流学習の年間計画

＜年間交流カレンダー＞

月		４月	５月	10 月	11 月	２月
交流	話し合い	打合せ会				反省会
	全校交流		対面の会	持久走大会	収穫祭	
	学年交流		学年交流→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→			

ア　交流内容と時数（数字は時数）

平成１３年度実施時数

教科・領域等		学校行事	児童会行事	教　　科	他	総時数
全校児童による交流（本校 140 名　ろう学校９名）			対面の会１ 収穫祭３	体育２ （持久走大会）		６
学年による交流	１　年	稲運び１		図工，体育等１２		１３
	２　年	稲運び１		生活，体育等１２		１３
	３　年	稲運び１	ﾕﾆｾﾌﾊﾞｻﾞｰ１	体育等１４		１６
	４　年	田植え２		体育等７	クラブ２	１１
	５　年	田植え２稲刈り２		体育等７	クラブ２	１３
	６　年	稲刈り２		体育、音楽等１８	クラブ２	２２

イ　打合せ会

毎年４月に両校児童の願いを基に，担任同士が青生小学校で，今年度の計画の話し合いをもつ。昨年度の反省を基に資料を作成し，本校とろう学校の児童の実態を十分に把握し，全校児童による交流学習の意義を確認した後に学年毎の交流の話し合いを行う。資料には以下のものがある。

打合せ資料：交流計画，本校とろう学校児童の実態，交流計画用紙（学年用）等

ウ　年間計画一覧

４月の打合せ会で話し合われた各学年の交流計画を，本校では教務主任が一覧表にまとめ，全体の流れをつかむようにしている。そして，月の行事予定表に位置付け，交流学習と

校内行事との調整を行っている。

エ　反省会

毎年２月に両校担任がろう学校で，今年度の交流学習を振り返り，次年度に生かすための反省会を開く。事前に担任から活動の様子や児童の変容について，反省点を出してもらい，資料を作成し，それに基づいて話し合いを行う。全体に関わる点について話し合った後，学年部に分かれて話し合う。また，学年部で話し合っている時間に，本校教務主任とろう学校小学部主事が，次年度の全校交流の日程調整を行う。

１３年度　　交流学習年間計画表

＊丸数字は時数

月	日	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
5	8 火				田植え②	田植え②	
	16 水	対面の会①	対面の会①	対面の会① 教科①	対面の会①	対面の会①	対面の会①
	30 木				クラブ①		
6	26 火	図工②					
	30 土			ユニセフ バザー①			
7	5 木			体育①			
	7 土				体育①		
	13 金		生活② ろう学校				
	17 火					体育①	体育①
	18 水					体育①	体育①

（２）活動の展開

ア　交流対面の会

（ア）ねらい

これからの交流を進めるに当たって一堂に会し，共に活動していこうとする意欲を高める。

（イ）日時　　平成１３年５月１６日（水）　１０：２５～１１：３０

（ウ）会場　　青生小学校体育館，各教室

（エ）プログラム

・はじめのことば　・ろう学校児童の話　・青生小学校各学年歓迎のことば

・ろう学校児童の自己紹介　・校長先生のお話　・おわりのことば

（オ）留意点

聴覚障害者への接し方について考えさせ，仲良くなるための準備を行い，温かく迎えることができるようにする。

（カ）交流の様子

対面形式で並び，開会後，本校児童がはじめのことばを述べた。ろう学校の児童に配慮し，児童会役員が模造紙に大きく「お迎えのことば」を書き，ろう学校児童にその模造紙を見せながらことばを述べた。できるだけゆっくりはっきり述べるように指導をした。

〔対面の会　歓迎のことば〕

次に，ろう学校の児童による「代表のことば」では，同じように模造紙に書いた文字を手話を交えて発表した。本校の児童は真剣に聞こうとする様子が見られた。各学年による歓迎のことばは，事前の準備を十分に行っていて，手話を交えたダンスなどもあり，工夫を凝らした内容であった。全体での対面の会の後，各学年の対面の会を行うため，教室に移動し交流を行った。歌を歌ったりゲームをしたりとそれぞれの学年が出会いを大切にして，楽しい交流の時間を過ごすことができた。

イ　持久走大会

（ア）ねらい

長い距離を自分の目標に向かって走り抜こうとする体力と忍耐力を養い，ろう学校との交流を通して互いの健闘をたたえ合う。

（イ）日時　　平成１３年１０月２３日（火）　９：２０～１１：１０

（ウ）会場　　青生小学校校庭並びに周辺の農道

（エ）係分担

両校の教師が以下の係を分担した。

計時，記録，折り返し地点観察，着順，伴走，救護，児童管理等

（オ）留意点

各自の目標を設定するとともに，互いに励まし合って練習に取り組むことができるように支援し，大会当日の健闘をたたえ合えるようにする。

（カ）交流の様子

〔表彰式　ろう学校の友達も２位入賞〕

この大会については毎年保護者にも知らせており，ろう学校との交流学習の一環であるということも理解されているので，学校周辺や校庭で温かい励ましの声をかけて下さる地域の方々の姿が多く見られる。

児童の感想

走る前に青生小の友達から「お互いがんばろう」と声をかけられました。最後の方は４人しか先頭グループにいなくなり，苦しかったけどがんばって走りました。初めて２位になれてうれしかったです。（ろう学校児童）

ウ　ろう学校訪問

（ア）学年　２年生　生活科「かいものごっこをしよう」　２時間

（イ）ねらい

・　人と関わりながら買い物をしたり品物を売ることができる。

・　他の児童と一緒に仲良く活動することができる。

（ウ）日時　平成１３年７月１３日（金）

（エ）会場　ろう学校小牛田校

（オ）交流の様子

ろう学校まで歩いて２０分ぐらいで到着。あいさつの後「さんぽ」を手話を交えて歌った。出店のために作ってきた品物を並べ，売る側と買う側に分かれて「かいものごっこ」が始まった。ろう学校の友達も一緒に店を並べ，自分が作った品物を教師の手伝いを得ながら売っていた。途中売る側と買う側が交代し，ろう学校の児童は買う側としていろいろな出店に行って，欲しい品物を買っていた。

児童の感想　　一番うれしかったのは，ろう学校の友達が私の店に来てくれたことです。一緒にお弁当を食べたとき，一番楽しそうな笑顔を見たので私も笑ってしまいました。これからもろう学校の友達といい思い出を作りたいです。（青生小児童）

３　交流活動のための体制

（１）児童の願いや思いを反映させるための体制づくり

全校児童による交流学習の際には，青生小学校教務主任とろう学校小学部主事との間で連絡・

確認を行い，児童主体の計画がスムーズに実施できるよう配慮する。また，学年（部）での交流学習は，事前に担任同士が電話で連絡を取り合い，細かに打合せを行う。天候に左右される交流学習（水泳）もあり，連絡は密に取るようにしている。特に本校では交流のための事前の指導と準備を大切にしたいと考え，交流について考える児童の話し合い活動やその準備のための活動では，児童の願いや思いを交流の時間に反映できるように配慮している。

（２）安全面への配慮のための体制づくり

郊外のコースに出る持久走大会では，両校の多くの教職員が係を分担し，安全面への配慮をしている。また，本校児童がろう学校へ出かけるときには，担任の他に教務主任等が付き添うようにし，安全確保に努めている。

４　成果と今後の課題

（１）成果

○　子どもたちは，交流を通して様々なことを学んでいる。ろう学校だけでは体験できない学習を楽しみにしていて，そのことを通して社会性が育ってきている。（ろう学校教諭）

○　ろう学校へ行って交流したことは，ろう学校の児童や学校を知る大変よい機会となった。また，持久走大会の練習を一緒にすることで，自分たちももっとがんばらなくてはという意識が育ってきた。（青生小学校教諭）

○　みんなと一緒に活動したこと（餅つき，１日交流，パソコンでの名刺づくりの学習，手話の学習，野球やサッカー）がとても楽しかったです。（ろう学校児童）

（２）今後の課題

○　総合的な学習の時間の中に交流学習を位置付けていく。

○　交流学習におけるろう学校児童との意志疎通のための一層の工夫

５　今後の取り組みの方向

本校の総合的な学習の時間における「福祉」分野の活動の一つとして発展させ，いろいろな視点やアプローチから交流学習を深め，思いやりの心を児童に育んでいきたいと考える。

【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は，県立ろう学校小学部との交流体験活動である。学校により交流教育の具体的な計画は様々であると思うが，全学年で６年間を通し，また，田植え・水泳大会・持久走大会・稲刈り・教科学習など年間を通して取り組まれていることの意義は大きい。校庭や農道を使った持久走，２年生の生活科での「買い物ごっこ」などは，地域に飛び出した交流であり，こうした学習活動が地域の人々に与える意味も大きいと言えよう。

このように継続的で日常的な取組は，内容の濃い交流体験活動を充実・発展させていく鍵になるだろう。本事例では，この活動の実施のため，両校の教職員が何度も集まり，その活動内容等を十分に話し合う時間をもっている。また，保護者や地域に開かれた交流活動が推進されていることは，児童がその体験をさらに内面化し，深めていくことにつながる。そのためにも，保護者や地域への広報，学校間の連携協力が重要である。